

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370500591		
法人名	社会福祉法人 かぶと会		
事業所名	グループホーム 泰山木		
所在地	岡山県笠岡市横島1896番地		
自己評価作成日	平成22年3月10	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatioPublic.do?JCD=3370500591&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成22年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、ハード面において、従来の施設的なイメージを出る限り取り除き、事業所名を表示した看板のような物は無く、門柱に表札程度の物を取り付けているのみで、一見グループホームだと分からないで普通の住宅と思われることもよくある。また内装も、出来る限り木材や木材に似た素材を沢山使用して、ご利用者の方が、今まで生活されて来た家での環境に少しでも近く、温もりある空間に感じる生活の場である。
ご利用者の人間関係を幅広く閉鎖的な生活にならないように、併設した小規模の通所介護施設と、お互いのご利用者の方が行き来している。気軽に交流を持ち、仲の良い友人関係も築くことができている。また合同の食事会を月1回程度行い、生活の活性化を図っている。ひとりひとりのご利用者の方の思いを大切にしたいと、思い出の場所や行ってみたい場所等を、日々の生活からくみ取り、個別の外出を行っている。また季節ごとの、地域の行事にも積極的に参加している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このホームの前の道は昔海だったという話を聞いてびっくりした。笠岡市の南部は半世紀前干拓してきた土地が今は栄えている。この地に麦藁帽子の工場があって、この地域の人は皆麦藁で真田織紐をつくり、色々な型の容器や箱物を作って、きれいに包装した商品にしているのが、このホームの利用者のやりがいになってきた。利用者、職員、地域の人との人間の交流を大切にして、法人と一緒に近所や地域の人と色々な行事や催しの準備、そして、清掃等に協力している。法人の祭りのコーナーでここで作った真田織や手芸の作品、野菜等の即売をして利用者の楽しみに使う。皆で喜べる生活をしている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的に事業所理念の再確認を行い、それを元に地域や利用者との関わり、事業所としてのサービスの内容が適正なのか、一人一人がよく考えて業務を行うように心掛けている。	法人の理念である「利用者主体の人生を」を軸に毎年年度経営方針が出て、泰山木独自目標を作り、半年毎に評価して実態を把握している。21年度目標にはエコ活動も取り入れ水道5%削減等数値目標も設定している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の参加(敬老会・草取り・祭り等)や散歩時の地域の方への挨拶を積極的にしている。	理事長は地元の出身で土地に馴染みもあり、敬老会や祭りには積極的に参加している。近所の方が日程を教えてくれ、敬老会では婦人部長が席を設けてくれる。散歩でも挨拶をしたりして交流ができています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の余暇活動としての(時間で)手芸作品を、法人による祭り時に、紹介したり一部販売を利用者本人が行っている。面会時にも紹介している。第三者委員として、地域の民生委員に来ていただき、泰山木での対応を参考にさせていただいている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の推進会議と家族の交流会を一緒に行っており、そこで出た意見を運営(行事等)面で参考にしたり、協力をして頂いたり、地域の情報をもったりしている。	運営会議運営要領を作成し委員も選任している。地区会長、民生委員、泰山木の第三者委員、家族代表、市職員が参加している。事業報告等もしているが、参加者がざっばらんに色々な意見を出してもらえたい。	堅苦しくなく認知症やりハビリ体操について近所の人に勉強して貰える拠点作りとして運営推進会議も活用していったらどうか。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常日頃から連絡を密に取ってはいないが、必要な報告事項や提出書類等は確実にしており、信頼関係は十分に築けている。	運営推進会議の案内も毎回出欠の返事をもらうようにしていきたい。笠岡市介護保険課とは十分な信頼関係ができています。市は事業所側の立場をよく理解し事業所側に立って親切に対応してくれています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回程度の拘束廃止に関する勉強会を全職員対象で行っている。身体だけでなく、言葉による拘束もないように職員が話し合い拘束防止に努めている。	実際の話合いで何が拘束になるか意見を出し合っている。「危ない」「待って」など職員の都合で声をかけていないか利用者が納得した上で事を運んでいるか、など一つひとつ事例を検討し拘束防止に努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員を対象にした、研修会等は現時点では実施出来ていないが、個々には十分個人の尊厳を理解して日々の業務にて利用者の方に接している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が対象で研修等を実施して、学ぶ機会は設けられていない。そのため十分な理解の上での支援は不十分である。(成年後見人制度を利用しているご利用者もいらっしやる)		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、書面と口頭による説明を十分に行い、承諾のサインを必ずもらっている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「ご意見・感想」の用紙を常に配置しており、面会時や推進会議・家族会等で記入を勧めている。また年1回はサービスに対してのアンケートをとり、要望等に対応している。苦情等に関する事項については、法人全体で迅速に対処している。	意見要望箱を玄関に設置している。他会議でも感想意見を聞いている。また日頃のコミュニケーションの中から利用者・家族の思いを拾い出すよう心掛けている。ものが言える環境と受け止める力を養っている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	原則月1回の、全体又は各ユニット毎での会議時に、意見交換を実施している。自己申告書にて、法人として、各部署として、個人として、改善点等の意見を一人一人提案する機会がある。	日々の業務の中や会議で聞いているが、自己申告シートの提出で職員の考えを詳しく知ることができる。将来展望・職場の運営・上司や各委員会への希望など多岐にわたる。職員の、法人を皆で育てようとする意欲が伝わる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	話し合いの機会を持ちながら、行っている。仕事に対する考課票(自己評価・上司評価)や自己申告書等を参考にしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己申告書により、自己分析や個々の目標を定め、レベルの向上に努めている。また法人内外の研修においても、希望の研修内容の提案や、興味がある研修への参加協力を適正に実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内ではあるが、他部署間で職員の受け入れを行い、研修を数日間行っている。それにより、自部署に足りないところや新しい取り組みのヒントの気づきの機会になっている。個人的にも自分自身を見直す機会になる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人は勿論の事、家族から利用者の方のこれまでの生活歴を収集し、本人が一日でも早く落ちついて生活できるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	どんな事でも遠慮なく話してくれる関係を築くと共に、細かな事でも必ず連絡を取り、信頼関係作りをしている。 サービス導入前にも事前に聞き取りを行い、少しでも不安の軽減に努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人等からの情報を元に、職員間でカンファレンスを実施して、適正なサービスに努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方一人一人に合った、役割や責任を持ってもらい、職員も一緒に生活を共有している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等は必ず家族の参加を促して、利用者の方と一緒に過ごす機会を設けている。 同時に職員との交流の場にもなり、信頼関係の構築に繋がっている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別の外出を企画する上で、本人に行きたい場所、思い出の場所等を尋ね、実現出来る様に努めている。 生活歴の情報収集にも、日々努めている。	利用者は笠岡周辺の人が多い。この地域産業である真田編にもよく馴染みがあるため話も合う。また職員は折り返し毎に利用者の生活歴を聞き出す努力をし、馴染みの人や場所が途切れないようにしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションが取りにくい利用者の方も、職員が間に入り、孤立しないよう他者との交流に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況にもよるが、本人や家族からの要望等あれば、協力は出来る限り行っていく。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、思いや意向は聴き取っている。 本人本位は、「原則」として支援させて頂いている。	職員採用時一番に利用者本位に考えて生活していこうとする人かどうかを見る。法人全体の最も重要視するところである。職員は常にコミュニケーションの中から利用者の思いを汲み取る訓練をしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の記録ファイルを準備しており、家族や知人の方から面会時や行事等で、情報の記録をするようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の状態を十分に観察しながら、職員間で情報交換し、適正な対応に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及び家族の意向も大切にして、担当者により介護計画の作成を行っている。 アセスメントは一部の職員等の意見しか現状では反映されていないので、今後の課題として取り組みを開始している。	入所後1週間24時間精神面・排泄・睡眠等の様子を1枚のシートに職員全員で記入していく。情報を基に暫定計画を立て日々のケースを記録、本計画に結びつける。原則半年で見直し、変化があればその都度プランを変更している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録時特に変った事は、色を変えて強調し、情報の共有を図っているが、記録の個人差が課題。 個々のケース記録に、介護計画を添付し、いつでも確認できる状態にしており、その実績を毎日記録している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	いろいろと制限があるが、日々利用者の方の意向に対して、出来る限りの対応は心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	十分な地域資源の把握は出来ていないが、買い物や地域の行事への参加、幼稚園への訪問等で、生活範囲が狭く、閉鎖的な生活にならないように心掛けている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人及び家族の方の意向を、十分に確認している。また入居後でも状況に応じ、相談を随時行い、より良い対応に努めている。信頼できる協力医療機関が近くにあり、往診や、状態変化時の相談にも応じてくれる。	笠岡第一病院に殆どの科があり連携している。原則として定期受診はホームが行っているが、状態が変わったときには家族にもお願いし、本院のドクターもホームに来てくれる。急病の場合すぐ判るデータも整っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師による、利用者の方の医療的な相談や状態確認を受けている。また必要に応じて、医療機関との連絡も密に行ってくれている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は定期的に訪問し、医師・看護師と情報交換や相談をし、利用者の状態把握をしている。ソーシャルワーカーの方とも、入院中又は退院時は、十分情報交換を行い、円滑な退院ができるように努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とは重度化した時は、どこでどう過ごさせてあげたいか、急変もありえること等、状態に応じてカンファレンスを実施している。本人には、重度化や終末期についてはっきり話をすることは難しい。	医療的処置が必要になれば病院か法人の特養へ入って貰うことになる。家族の協力医療従事者の条件が揃えばこれまでの支援をさせて貰う。また延命措置を望まずグループホームに帰りたいという希望には添うつもりでいる。家族が泊まり込める準備もできている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを、個々では確認しているが、不十分な点も多く、実践力を身に付けていく事も、同時に今後の課題である。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練及び消火訓練は定期的に全職員対象で実施している。災害時の避難訓練及び地域との協力体制の構築は今後の課題である。	年2回の訓練のうち1回は夜間想定で行っている。非常通報装置は設置済みで来年度にはスプリンクラーも設置予定。消防署や法人の特養もすぐそばにあるので心強い。また日頃から親しくしているご近所の協力もある。	運営推進会議と避難訓練を一緒にして近所の人にも来て貰い防火意識向上と協力を呼びかけてはどうでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症という病気に囚われず、利用者の方の思いや気持ちを共有し、人としての当たり前の対応を心掛けている。その人の生きてきた人生を尊重し、目上の方という意識を根本にもち、人生経験に応じた話し方や対応に留意している。	本人の意向・思いを第一に考え、職員は一つひとつ確認・納得してから物事を進めている。又職員自身の立場に置き換え自分がして欲しくない事はしない事を念頭に日頃から利用者に接するようにしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が難しい方には、選びやすいように配慮した、選択肢を与える話しかけをし、決定出来るように働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、利用者の方の希望に沿った支援に努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活歴等で得た情報を元に、可能な限りの対応に努めている。 約2ヶ月に1度、訪問理容に来てもらい、身だしなみ等の支援をしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえから、盛り付け配膳や片付けまで、手伝える利用者の方と一緒にしている。又誕生日のお祝いには、本人に何が食べたいか尋ねお祝いをしている。	訪問した日は皆好きな小豆ご飯できれいに平らげた。早速夕飯の献立を、その日は男子職員の当番だそうで、一緒に本を見ながら考えていた。できる事はなるべく手伝って貰うようにし、買い物にも一緒に行く。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量が一目で確認出来るように、ケースに記録している、又食事量にムラのある方は、摂取量を記録し情報の共有をしている。 食事内容が偏らない為に、メニューを日誌に記録して参考にしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全利用者の方が、毎食後の口腔ケアの実施は出来ていないが、口腔内の状態によりその都度対応をしている。又食後には水分補給の目的もあるが、しっかりお茶を飲むことを勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	観察を十分行い、尿意が不確な方も定期的にトイレ誘導し、トイレでの排尿を促している。トイレ誘導が必要な利用者の方は、記録をし定期的な誘導を全職員の共通認識の元行っている。	便秘対策として管理表をつけて水分補給や果物野菜をたくさん摂るように心掛けている。医師や看護師に相談する事もある。定期誘導により紙パンツだった人が布パンツ・紙パットになり活発になった。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分量に注意しているが、それでも便秘になる場合は、排便状況(排便記録)を確認し、下剤の服用にて排便管理をしている。又往診時に医師や訪問看護師に相談・アドバイスをしてもらっている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現実的に時間を決めずに対応することは、困難な面もあるが、出来る限りの対応はしている。本人からの入浴希望があれば、毎日でも可能である。	2日に1回が基本であるが希望があれば毎日でも入れる。車椅子の人の入浴は遅番の職員が来た3人体制の時に2人介助で支援する。マンツーマンで色々話をしながら入浴を楽しんでいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう、利用者の方の状況に応じた対応をしている。下肢に浮腫がある方も多く、定期的に休息を勧めて、浮腫の軽減に努めている。		
47		服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイリングしている為、いつでも必要時にはすぐに確認することができる。服薬に関しての管理や支援は、十分な注意と薬の理解の下行うように努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手作業が好きな方、テレビや本等が好きな方など、個々に合った生きがいや、やりがいの支援に努めている。またドライブや外食等の楽しみを、職員も含め皆で共有している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物行ったり、気候が良い日はドライブに出掛けたりと日常的に行っている。本人の希望(自宅や墓参り)等が確認出来たら、家族の方と相談し、出来る限り実現している。	食事の献立を一緒に考え買出しに行ったり、天気の良い日は散歩をして自然に触れている。幼稚園の運動会や学芸会・駅前商店街の土曜夜市へも行く。墓参りに行くことで落ち着きを取り戻す利用者も居る。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの利用者の方は、金銭管理が困難であるが、希望があれば本人責任の本、管理して頂いている。預かり金を職員側で管理しており、欲しい物や必要な物は購入出来る様にしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特別な制限はなく、本人の要望等あれば随時支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備は日々心掛け、清潔に保つように努めている。また季節ごとの掲示物等、利用者の方と一緒に作成し、楽しい雰囲気作りをしている。	広くゆったりとしたリビングで畳の間もある。真田編の作業がいつでも出来る様になっている。手先の器用な人が多いのか高度な手芸品や飾り物が多く見られ、見ていて楽しい。書道も活発に行われている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファやベンチ(利用者制作品)を設置し、利用者同士でくつろいだり、日向ぼっこをしている。又畳の間を設けており、昼寝をしたり、足を伸ばしてゆっくり出来る場として利用している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族の意向を何よりも大切に、居室は本人の馴染みの物を置いてもらい、落ちついて生活ができるにしている。	3部屋を和室として作っており、畳希望の人にも配慮している。訪問した日は天気がよく布団をみんな干していた。利用者がわざわざ部屋を案内してくれ丁寧に様子を教えてくれ写真や飾り物も見せてくれた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	便所の場所の表示や、嚙下がしっかり出来るように、状態や体型を考慮した様々な椅子の使用をしている。また食事の準備をするのに、利用者の背丈に合ったテーブルの使用をしている。		